

□ 子どもの読書活動推進に関する取組 □

(令和2年度実施事業から)

【目 次】

I	小学校	1
II	中学校	9
III	高等学校	12
IV	こども園・保育園・幼稚園・保育所	13
V	読書ボランティア団体	17
VI	市立図書館（令和3年度予定事業）	19

I 小学校

1 盛小学校

(1) 読書月間

(内容)

- ① 6・10・2月の年3回設定する。
- ② 個人ごとの「ポイントラリーカード」「読書貯金カード」等に本を借りたら、シールを貼る。カードが満点になったら、図書委員会が作成した「いつでも2冊借りられる券」または「しおり」がもらえる。

(成果) 読書月間中は、本を読む児童が増加した。また、図書室に足を運ぶ児童も増加した。

(2) 読書まつり

(内容)

- ① 「図書おみくじ」を設置し、図書室入口を工夫する。
- ② 「ポイントラリーカード」の取り組みを行う。カードには、図書分類番号が記されていて、借りた図書の分類番号の箇所にシールを貼る(分類番号913の図書を借りたときは「9」に、264の図書を借りたときには「2」にそれぞれシールを貼る)。カードが満点になったら、図書委員会が作成した「いつでも2冊借りられる券」または、「しおり」がもらえる。
- ③ 「本物野菜クイズ」を行い、図鑑や百科事典への興味や意識を高める。
- ④ 図書委員会の児童による「教科書クイズ」を行い、発展読書につなげる。

(成果)

- ① 「ポイントラリーカード」に取り組むことで、本を読む児童が増加した。また、図書室に足を運ぶ児童も増加した。
- ② 教職員から、いろいろな分野の本を読ませたいという希望があった。「ポイントラリーカード」に取り組むことを機に、いろいろな分野の本を読む児童が増加し、教職員の願いにも応えることができた。
- ③ 「教科書クイズは、児童朝会で行ったこともあり、全校児童の読書の意欲づけにつながった。

(3) ボランティアによる読み聞かせ

(内容)

- ① 毎月1回、朝(8:15~8:30)の時間に、学年ごと、それぞれの教室で行う。
- ② 「おはなしころりん」が進めている。

(成果)

- ① 児童が静かに聞き入っている。
- ② 楽しみにしている児童が多い。

2 大船渡小学校

(1) 各教科の中での読書活動(年十数回)

国語・並行読書や社会・総合的な学習の時間の調べ学習の中での読書。本は限られているが、昨年度、新たに活用できるような本を購入することができ、活用の機会が増えた。

(2) 読書感想文(年1回)

学年ごとに取り組み、1人1冊の本について感想文を書いた。

(3) 朝読書（週1回）

金曜日の「朝学習」の時間に、15分間の読書の時間を設定している。週1回ではあるが、集中して本を読んでいる。

(4) 親子読書（年2回）

夏休み・冬休み期間中に親子でともに読書をし、感想を書く活動を続けている。「親子読書」は各家庭にとって難しいのが現状だが、実施後の感想を読むと肯定的なものが多いので続けていきたい。

(5) 「おはなしころりん」による読み聞かせボランティア（年12回）

年に数回、各学年に入って読み聞かせをお願いしている。限られた回数ではあるが、児童は楽しみにしている。

(6) 図書支援活動地域ボランティアの活動（年20回）

蔵書管理から図書配架の工夫まで、子供たちが本に親しむような活動を行っている。今後も継続した活動をお願いします。

(7) 図書委員会の活動

① 毎日の貸出活動

② 「読書の本」「集めてべったん」「お褒め本イラストコンクール」等のイベントを計画し、読書を推進している。

3 末崎小学校

(1) 新刊図書の購入

（内容） 年間1～2回程度、学校予算及び支援の図書カードで新刊図書の購入をした。

（効果） 新刊図書が図書室に並ぶ時期には、図書室を利用する児童が増えた。

（課題） 予算の関係で、新刊図書の購入冊数が少ない。

(2) 図書室外への貸出し

（内容） 日常の図書室利用だけでなく、教科の学習に関わる関連図書を学年で借りて、図書室外でも活用できるようにしている。

（効果） 並行読書を行わせるときに、身近なところに本があることで、本を読む機会が増えた。

(3) 長期休業中の貸出し

（内容） 長期休業中も図書室の本を貸し出し、本に触れる機会を多くした。

（課題） 利用する児童が少ない。

(4) 「多読賞」の表彰

（内容）

① 学年ごとに「目標冊数」「目標ページ数」を提示し、達成した児童に賞状を配布する。

② 読書をしたら、それぞれ「読書ファイル」に記録させる。

（効果） 目標を設定することで、たくさん本を読む児童が増えつつある。

（課題） 「読書ファイル」に記入することを忘れる児童がおり、目標を達成していても賞状をもらえない児童がいる。

(5) 必読図書の選定

（内容） 国語の関連図書の中から必読図書を選定し、図書室前の廊下に「必読図書コーナー」を設

けている。

(効果) 興味のある本だけでなく、国語の関連図書にも触れることができる。

(課題) 国語の教材が新しくなったので、図書の購入を計画的に行わなければならない。

(6) 図書委員会の活動

(内容) 図書委員会(児童)の取り組みとして、「おすすめ本紹介コーナー」の設置や「読書祭り」の一環として「図書ビンゴ」を行った。

(効果) 取り組み期間内に、図書室に出入りする児童が増え、いろいろなジャンルの本を読む児童が増えた。

(課題) 毎年の活動で、高学年の児童にとってはあまり魅力的ではなくなっているように見受けられるので、取り組み方を工夫する必要がある。

(7) 移動図書館車の活用

(内容) 市立図書館や「おはなしころりん」の移動図書館から、「学級文庫」として毎月30冊程度借りている。

(効果) 学校の図書室にはない本を読むことができ、児童は興味を持って読んでいる。

(8) 「朝読書」の推進

(内容) 毎週水曜日、全校で「朝読書」に取り組んでいる。

(効果)

① 普段、自主的に本を読まない児童も、読書の時間を設定することにより、本に触れる機会を持てる。

② 朝読書をすることにより脳が活性化され、1校時の授業から集中して取り組むことができる。

(9) 読書ボランティアによる読み聞かせ

(内容) 月1～2回、読書ボランティアによる読み聞かせを行っている。

(効果) 読書ボランティアが読んでくれた本に児童が興味を持ち、読んでみたいという意欲につながっている。

(10) 家庭読書の推進

(内容) 家庭学習の一環として、毎日10分間程度の家庭読書に取り組みさせている。

(効果) 家庭の協力を得ながら、毎日読書をするという習慣が身に付いてきた児童が増えてきた。

(課題) 家で読書をする習慣がなかなか身に付かない児童もいる。

(11) 親子読書

(内容) 長期休業中に親子で本を読む機会を設定している。

(効果)

① 親子で読書をすることにより、1人で読書をするよりも楽しさが増すようである。

② 子どもがわからない言葉の意味を親が説明することで、語彙の量を増やすことができる。

◎新規実施予定

教科の関連図書の購入 国語の教材が変わったことに伴い、それに関連する図書を計画的に購入し、並行読書に生かせるようにする。

4 赤崎小学校 (○=効果 ●=課題)

(1) 読書週間 (6月15日～21日)

- ① 朝読書 朝学習の時間に読書
 - 時間が確保され本に親しむことができた。
- ② 読み聞かせ 朝読書の時間、図書委員が1・2年生に対して、大型絵本の読み聞かせを行う。
 - 1・2年生が喜んで聞いてくれた。紹介した本の関連本の紹介により、読書意欲が高まった。
図書委員は達成感を味わえた。
- ③ 図書郵便 「図書郵便はがき」で本を紹介しあう。
 - 異なった学年で本の紹介をしあうことができた。
- ④ 家庭読書 家庭で読書に取り組む。(1週間)
 - カードを使った取り組みなので、この期間はいつもより頑張って読む児童が多い。
● 取り組みに個人差がある。(本人・家庭による評価アンケートから)

(2) 読書まつり(11月9日～27日)

- ① 朝読書
- ② 読み聞かせ(図書委員)
- ③ 図書郵便
- ④ 読み聞かせ「おはなしころりん」おはなし会
 - 学校にはない本の紹介をしてもらえた。じっくり本の世界に浸る時間となった。
- ⑤ 図書ビンゴ 分類番号でビンゴ
 - さまざまな分類の本を読む機会となった。
- ⑥ 題名しりとり 書名でしりとりしながら読む。
 - さまざまな本に親しむ機会となった。
- ⑦ くじ引き 期間中5冊以上読んだ児童を対象に、景品付きのくじ引きを行う。
 - 毎日、本を借りに来る児童が多くなった。

(3) 先生方のおすすめ本

- 昼時間の校内放送で、先生方におすすめの本を紹介してもらおう。図書室に本を展示する。
- いろいろな本に触れる機会となっている。

◎新規実施予定

- 学年のおすすめ本 発達段階に応じて読んでほしい本をリストアップし読ませる。

5 猪川小学校

(1) 読書強化週間(6月・11月)

- (内容) 図書委員会の活動
スタンプラリー 貸出ビンゴ おすすめの本紹介 図書委員体験
期間中の読書冊数調べ 1年生への読み聞かせ
- (成果) 期間中はたくさんの児童が来館し、読書推進の効果が見られた。

(2) 「かもしか号」「おはなしころりん」による本の貸し出し

(成果) 毎月本を借りることで、教室内に常に 40～50 冊の本を設置できている。

(3) 図書支援活動地域ボランティアの活用

(成果) 本の修理、新刊図書の受付、図書室内の整理をお願いしている。

6 立根小学校

(1) 朝読書(全校一斉)

毎週月曜日の朝活動の時間に、朝読書を実施している。どの学級も、静かに読書に親しむことができている

(2) 読み聞かせ

1・2年生が、朝読書の時間に「こころ」に読み聞かせをしていただいている。子どもたちは、楽しんで読み聞かせを聞いている。(1学期7回 2学期10回 3学期5回 計22回)

(3) 移動図書館「かもしか号」の利用(月1回)

「かもしか号」から学級ごとに本を借り、係の児童と担任が本を選んでいる。さまざまな本から選ぶ楽しみを感じている。

(4) 「おはなしころりん」の利用(月1回)

各学級に合わせて、本を選んでいただいている。「ころりん新聞」でおすすめの本を紹介してもらうことで、読書のきっかけづくりに役立っている。

(5) 図書館まつり

図書委員会の発表や、ボランティアグループ(「こころ」「おはなしころりん」)の読み聞かせを行った。読み聞かせは、学年ごとに行い、お話の世界に浸ることができた。(11月)

(6) 読書ビンゴ

2学期の読書月間に、図書委員会が計画して行った。ビンゴを目指して、多くの児童が図書室を利用することができた。

(7) 図書支援活動地域ボランティアの活用

児童が本に親しめるように配慮・工夫しながら、図書室の整理などをしていただいている。(毎週火曜日)

(8) 「多読賞」などの表彰

学年ごとに、「読書冊数目標」「図書室利用目標」を設定している。

学期や年間で目標を達成した児童を表彰している。

(9) 東南アジアに絵本を贈ろう 2020

6年生 39名が、東南アジアに絵本を贈るボランティア活動を行った。「おはなしころりん」の指導を得ながら、貴重な体験をすることができた。(10月)

7 日頃市小学校

(1) 朝読書

毎週月・木・金の朝活動の時間に実施。静かに自分の読みたい本を読む姿が全校で見られる。

(2) 学級文庫の充実

市立図書館「かもしか号」から各クラスに20冊、市内の読書ボランティア「おはなしころりん」から、学年にふさわしい本やリクエスト本を入れた図書25冊が常時学級に置かれ、自由に読むこ

とができる環境にある。本にふれる機会が多くもて、さまざまな種類の本に興味を持つきっかけになっている。

(3) 読み聞かせの定期的な実施

市内の読書ボランティア「おはなしころりん」による読み聞かせを、毎週木曜日の朝活動の時間に実施。3週間に一度、低・中・高学年ごとに実施している。※ 次年度から、月1回に変更予定

(4) 読書目標や必読図書の設定

学年ごとに、図書室から借りる目標冊数（1・2年 120冊 3年 100冊 4年 80冊 5・6年 65冊）を設定し、図書室に足を運ぶように工夫している。目標冊数を超えた児童に、学期ごとに「多読賞」を贈っている。また、学年で必ず読んでほしい本を選定し、各教室に置き、1年間で読むことができるように励ましている。

(5) 「図書まつり」の実施

11月に図書委員会主催の「図書まつり」を実施。おすすめの本を友だちに紹介する「読書郵便」やさまざまな種類の本に触れるための「読書ビンゴ」、たくさん本を借りて読んでもらうための「読書で絵を完成させよう」や図書委員会による「大型本の読み聞かせ」などを行い、秋の読書を深める機会としている。

(6) 心に残った本の記録の継続

週末課題で「心に残った本カード」を書き、心に残った本について書きとめている。廊下に掲示したり、友だちとカードを読み合う時間をつくったりして、本を読む意欲にもつなげている。

(7) 親子読書の実施

冬休み中に親子で読書をして、「親子読書カード」を書いてもらっている。親子で同じ本を読むで、お互いの感想を知る機会としている。

8 大船渡北小学校

(1) 朝読書・読み聞かせの取り組み

毎週月曜日の朝活動の時間に実施。

○読み聞かせは低学年で実施。(今年度は、新型コロナウイルス感染症感染防止のため未実施)

(2) 学級文庫の充実

各学級に、市立図書館「かもしか号」と、市内の読書ボランティア「おはなしころりん」より常時図書が置かれ、自由に読むことができる。また、国語の教科書関連の本も教室に設置している。学習に必要な図書を学級単位で貸し出すこともあり、様々なジャンルの本や学習に必要な本をすぐ手に取ることができる環境を作るようにしている。

(3) 読書目標の設定

学年ごとに目標冊数（低学年 120冊 中学年 80冊 高学年 40冊）を設定し、たくさん本を読むように呼びかけている。目標冊数を超えた児童には「多読賞」を贈っている。

(4) 読み聞かせの実施

6月の梅雨の時期に、図書委員会の児童が紙芝居の読み聞かせを実施。雨天の日のみの実施で、室内での過ごし方の一つに設定し、より多くの児童が図書室に足を運ぶように工夫している。

(5) 読書月間の実施

11月に図書委員会主催の「読書月間」を実施。児童朝会でおすすめの本を紹介やスタンプラリー、ぬりえコンテストなどを開催し、図書への関心を高めている。

(6) 読書の記録の掲示

廊下に「読書の記録」を掲示し、自分や友達がどんな本を読んでいるのか、何冊ぐらい読んでいるのかなどがわかるようにしている。担任も児童の読書冊数や読書傾向を把握しやすく、図書室に通うように促したり、本を薦めるのに役立っている。

(7) 親子読書の実施

冬休み中に親子で読書をすることを推奨し、「親子読書カード」に取り組んでいる。同じ本を読むことにより、親子で交流する機会としている。

【成果と課題】

教室には常時 50 冊以上の本が置いてあり、児童はたくさんの本を読むことができる。図書室に足を運ぶ児童も多い。

しかし、高学年になってくると、読書に対する意欲や環境において個人差が目立ってくる。また、図書館の蔵書は古い本が多く、児童の興味関心や時代にそぐわないものも多いため、図書室の環境整備が必要である。

9 綾里小学校

(1) 読書強化月間

(内容) 6月と11月に図書委員会を中心に行った。

6月：読書ビンゴと図書委員のおすすめの本紹介

11月：読書ビンゴとおすすめの本紹介

図書祭り（「おはなしころりん」による読み聞かせ、各学年の代表によるおすすめの本紹介、図書クイズ）

(成果・課題) いつも以上に図書室から本を借りる様子が見られたが、本を借りる冊数が少ない児童がいたので、取り組み内容や呼びかけなどを工夫する必要があった。

(2) 親子読書

(内容) 夏休み・冬休みに、日にちを決めて親子読書に取り組み、読んだ本について「読書カード」に感想を記入し、休み明けに学校の図書室前廊下や各学級の教室に掲示する。

(成果) 夏休み明けの提出はたいへん良く、本の感想を親子で交流できたという感想が多く寄せられた。

(3) クリット（読み聞かせボランティア）による読み聞かせ

(内容)

① 低学年向けの読み聞かせ 5回（1・2学期）

② 中学年・高学年向けの読み聞かせ 各1回（3学期）

(成果) それぞれの発達段階に応じた本を選んで読み聞かせをしていただいた。子供たちはとても楽しみにしている様子だった。

(4) 図書支援活動地域ボランティアの活動

(内容) 毎月1回、図書支援活動地域ボランティア2名が来校し、新刊図書の受け入れや、図書室の環境整備などを行っている。

(成果) 季節に合った掲示や手に取りやすいように本を工夫して並べていただき、読書環境が向上した。

(5) 移動こども図書館の利用

(内容) 毎月1回、市立図書館「かもしか号」と「おはなしころりん」から学級用の本を借り、教室内で利用している。

(成果) 学年に見合った本を借りることができるので、すき間時間に読書に取り組めた。

10 越喜来小学校

(1) 朝読書

毎週金曜日の朝学習の時間をあてて実施している。

(2) 読み聞かせ

各学級とも年間9回程度、朝読書の時間を利用してボランティア団体の方々に実施していただいている。

(3) おすすめ本

年間5回記入している。用紙を廊下に掲示するほか、図書支援活動地域ボランティアが実際の本を図書室にコーナーを設けて展示している。

(4) 読書の記録

学校の図書室から借りた本の個別一覧表を、「おすすめの本」記入にあわせて印刷し、各自ファイルリングしている。この読書ファイルは、6年間（卒業まで）使う。

(5) 読書まつり・ミニ読書まつり

2学期に「読書まつり」、1・3学期に「ミニ読書まつり」を実施。読書ビンゴやしおり作りなどを行い、連日にぎわっている。

(6) 図書まつり

児童会行事として、1授業時間、図書委員会中心に、ボランティア団体による読み聞かせと「読書クイズ」を行っている。

(7) 音読書

研究部の提案により、全校で週末の音読書に取り組んでいる。

(8) 多読賞

学期ごと及び年間の目標冊数を学年ごとに決めて、達成した児童を表彰している。今年度は1・2学期とも全児童が達成した。

11 吉浜小学校

(1) 朝読書

週1回実施。毎日朝読書とする強化週間は年2回実施している。

(2) 家庭読書

毎月1回、家庭にも協力していただき、読書時間の共有や語り合い等、読書への意欲向上につなげることができる。

(3) 図書委員・6年生の「おすすめの本」紹介

年度初めと年度末に行い、読書のきっかけ作りとしている。

(4) 図書委員会の活動

読書スタンプラリー、読書クイズ、挿絵コンテスト、読書ビンゴ、読み聞かせ会、図書委員会朝会の実施

(5) 各学期、年度末の多読者表彰

図書委員会の活動を中心に、読書への意欲を継続させるものとなった。

(6) 長期休業中の読書記録と本の紹介

長期休業中の読書目標を設定し、個々の読書記録と本の紹介カードを掲示して、交流を図る。

(7) 移動図書館「かもしか号」の利用

年8回の利用。学級ごとに児童が交代で借りるのを楽しみにしている。ただし、月曜日の指定だったので、振替休日等に当たると、利用できないことがあった。

(8) 「おはなしころりん」の読み聞かせ

年12回。読書以外の本とのふれあい方を学ぶ機会となっている。

(9) 「おはなしころりん」の「分館図書」

年9回。「かもしか号」の本とともに、児童のすぐ手に届くところにあることで、本に親しみやすい環境になっている。

Ⅱ 中学校

1 第一中学校

(1) 朝読書

(内容) 朝15分間、教室で自分の興味のある本を読む。

(成果) 静かな環境の中、本に向き合う時間が、生徒たちの心を落ち着ける効果があった。

また、朝読書をきっかけに、休み時間に読書をする生徒が増えてきた。

(2) 図書館でのクイズ大会(図書委員会主催)

(内容) 図書委員会により、図書室でクイズ大会を開き、正解した生徒には、本のしおりをプレゼントした。

(成果) 関心を持って、図書室に足を運んでくれた生徒が増えた。

◎新規実施予定

授業と関連した図書紹介

国語の授業の中で、図書室の本を紹介する授業を展開する予定。

2 大船渡中学校

(1) 朝読書の実施

全校朝会や学年朝会のない日の朝に実施。時間は8:20~8:30の10分間。学級文庫の本(学校図書館や「かもしか号」から学級として借りてあるもの)、または各自持参したものを読んでいる。(雑誌や漫画等ではないもの)

(2) おすすめ本紹介

「図書委員がおすすめする本」を紹介するポスターを作成し、掲示。年2~3回程度。

(3) 「図書だより」の発行

コンクールのお知らせや、読書感想文の紹介、図書の紹介など。長期休業前に配布。

(4) 読書記録

読んだ本について、タイトルや簡単な感想等を記入する。

(5) 授業をとおしての指導

国語の時間におすすめ本紹介文を書いて掲示。年1回程度。

(課題)

- ① 上記の取組については、もう少し回数を増やし、定期的な取組としていくこと。
- ② 指導や取組が点として終わっているように感じるので、意識や取組を継続していくこと。

3 末崎中学校

(1) 朝の読書活動

(内容) 毎日8:15~8:30の15分間を全校朝読書の時間としており、生徒一人ひとりが自分の読みたい本を持参して、年間を通じて読書をしている。

(課題) 自由読書ではあるが、一層読書の質を高めることが必要である。今後、生徒間の読書交流や良書選択などで指導の工夫を要する。

(2) 「かもしか号」による学級単位の集団貸出し

(内容) 5月から8月までの間、「かもしか号」巡回日に学級単位で集団貸出しをしていただいた。市立図書館が選書した図書(1学級あたり約30冊)を月単位でお借りした。翌月は一度返却した後、他の学年が借りていたセットをお借りしてローテーションした。

(成果) 市立図書館司書の方が良書を選択してくださるので、質の高い読書活動に導く手立てとなった。

(3) 「かもしか号」を利用した代表生徒による借出

(内容) 学級の代表生徒による選書で1か月間図書を借り出して級友と読んでいる。

(課題) 生徒による選書には意味があるが、生徒が通常の学校生活の中でじっくりと選書する時間の確保が難しい。昼休みにも日常的に集会等が開催されるなどの中学校の現実がある。また、巡回車からの図書選択となると、良書との出会いの幅が限られるのではないかと思う。

(4) 新規購入図書の「味見読書」

(内容) 国語科の読書指導の一環として、新規購入図書を「1冊1分間だけ」読み、次々とローテーションして1時間で計20冊程度の読書をさせた。

(課題) 日常では手に取らないような本にも触れさせ、読書に誘うことがねらいである。継続的に実施できればよいが、教科内では時間の確保が難しい。

(5) 一行から始まる「400字読書感想文」

(内容) 読書後、文章の中から自分の気に入った一行(一部分)を選んで紹介し、そのことに端を発した感想文を400字程度で、全生徒に書かせた。

(成果) 読書感想文を書く憂鬱を軽減し、文章を書き安くする工夫であった。

(6) 国語科家庭学習課題での「書き写し活動」

(内容) 毎週1回、国語科の家庭学習課題として、専用のノートに多様な文章の「書き写し」をさせた。

教師が有益だと感じる多様な文章や新聞記事等を使って書き写させている。

多様な価値観や人生、言葉を知り、文章構成や表現のしかたを知ること、体で取り組ませている。

(成果) 生徒は課題を苦痛に思うこともあるが、毎週の文章を楽しみにする部分も見られている。

(7) 図書支援活動地域ボランティアによる図書整備と管理

(内容・成果) 図書支援活動地域ボランティアの協力を得て、図書の廃棄や修理、配架等を行い、

学校図書館の管理運営を最適化することができた。

4 赤崎中学校

(1) 図書支援活動地域ボランティアの活用

令和3年度の学校統合に向けて本の整備をしていただいている。配架や展示など細かいところまで配慮していただき、居心地の良い図書室を作っていただいている。

(2) 図書館オリエンテーション

年度当初、生徒に対して、国語科担当による図書室の利用について説明。生徒が興味を持って図書室を利用できるよう促している。

(3) おすすめ本の紹介

全校生徒が自分で面白いと感じた本の紹介カードを書き、校内に掲示する。

(4) 長期休業前の全員貸し出し

長期休業（夏・冬・コロナ）前に、全校生徒が図書室から本を借りる取組み。

(5) 年間を通じての本の陳列等

防災コーナーや朝読書用の本を、年間を通じて廊下に配置し、いつでも生徒が本を手にとれるようにしている。

◎今後の取組み

- ① 一人でも多くの生徒が本に興味を持ち、読書が好きになれるよう今年度の取組を踏襲していく。
- ② 読み物だけではなく、調べたいことがあるときに来館する生徒を増やしていきたいので、各教科とも連携を図っていきたい。
- ③ 学校統合に向けてさらに図書ボランティアとの連携を図っていく。

5 綾里中学校 ※令和2年度末をもって閉校

(1) 朝読書

(内容)

- ① 日課の中に、朝読書の時間（8：15～8：30）を設け、読書時間を確保した。
- ② 読んだ本は、「読書記録カード」に記録させた。
- ③ 学年ごとに課題図書を設定した。

1年生：「いわ100」掲載本 2年生：偉人の伝記 3年生：文豪の作品

(課題) 朝読書の時間と職員朝会の時間が重なっているため、教員が教室にいないときには、宿題等をしている生徒も見られた。

(2) 読書感想文コンクール応募

(内容) 夏休みに「読書感想文」を課題とし、優れた作品を青少年読書感想文コンクールに出品した。

(課題) 生徒に対する本の選定や読書感想文の書き方について、指導のための時間の確保が難しい。

(3) 校内ビブリオバトル（書評合戦）

(内容) 各学年の代表者の書評の発表を聞き、読みたいと思った本に投票し、入賞者を決定する。

学年ごとに予選を行い、出場者を選抜。

- (課題) 今年度で3回目の開催となり、本大会の趣旨や流れ等について、周知が図られている。
しかし、コロナの影響により、一堂に会しての開催とすることができず、録画した発表を見て審査を行った。

(4) 広報委員会との連携

(内容)

- ① 広報委員会が毎月発行している「図書だより」に、委員の「おすすめの本」や新刊図書についての記事を掲載。
- ② さまざまなジャンルの本を読んでもらうため、「図書ビンゴ」を実施。
- ③ 多読者の表彰

(5) 「かもしか号」の利用

(内容) 月1回巡回する、「かもしか号」から本を借り、「学級文庫」を設置。

Ⅲ 高等学校

1 岩手県立大船渡高等学校

(1) 書籍の紹介

(内容)

- ① 授業に関連した書籍の紹介
- ② 文学賞等受賞作品の紹介
- ③ テーマを決め、所蔵の関連図書を図書室に展示して紹介

(2) 校内ビブリオ・バトル大会

(内容) 1・2年生全員で校内ビブリオ・バトル（書評合戦）大会実施

2 岩手県立大船渡東高等学校

(1) 蔵書の充実

- ① 年2回、図書の購入希望調査を実施し、生徒・教職員の要望を積極的に取り入れるとともに、各科の専門書を充実させる。
- ② 定期購読誌・新刊・話題書・新書・名作などの充実

(2) 所蔵資料の周知、広報と利用促進、読書の推進

- ① 「図書館だより」等による新刊書の紹介
- ② 新1年生を対象とした図書ガイダンスの実施
- ③ 読書感想文コンクール（校内・外部）への応募
- ④ 多読生徒への図書カード贈呈
- ⑤ 充実した「朝読書」の実施

(3) 視聴覚設備・機器管理と整備

視聴覚機器を使った図書館での教育活動

(4) 図書委員会

- ① 図書の貸し出し当番（後期1・2年生）
- ② 「図書館だより」の編集、発行（委員「おすすめ本」の紹介）

IV こども園・保育園・幼稚園・保育所

1 盛こども園

(1) 絵本の貸出(5才児)

- ① 絵本貸し出しカード → 借りた本の記載（1年分読んだ本がわかる）
- ② 毎週1冊貸し出し → 月4回（木曜日に持ち帰り月曜日に返却）

(2) 月刊誌配布(1～5才児)

総合絵本を活用

2 大船渡保育園

(1) 家庭への本の貸し出し

(内容) 子どもが家で読みたいと思う本を1回に4～5冊程度、自由に貸し出している。

(借りた本の名前をノートに記入する)

(成果と課題)

- ① 本を見る・選ぶ楽しさを2歳くらいから経験し、そこから家族の方が本を通じてこどもに関わってあげる機会が広がって、親子の会話も増えている。(特に父親)
- ② 子どもたちの中には、拾い読みなどができるようになっている子もいるが、読み聞かせることの大切さも伝えていきたい。
- ③ 保護者の中には、家に帰ってからの忙しい時間帯に毎日本を読んであげてもらうことを煩わしく感じてしまう方も見られ、「もういいから」とか「これ、昨日と同じだよ」などと言って大人が子どもの意欲を削いでしまうことがある。

(2) 市立図書館の利用

(内容) 年長児(5歳児)の市立図書館を活用する体験

(成果) 年長児が市立図書館に出かけて、たくさんの中の中から読みたい本を選択し、公共の場でのマナーを守り、静かに本を読んだり、本を借りてから返すまで大切に扱うことなどを学ぶ良い機会になっている。

3 明和保育園

(1) 絵本の貸出し

遊戯室に、「貸し出し絵本コーナー」を設けている。絵本を親子で選び、家庭で一緒に見たり、読み聞かせをしてもらっている。

(2) 各保育室での絵本の読み聞かせ

毎日、保育士が、各年齢にあった絵本の読み聞かせをしている。

4 末崎保育園

(1) 避難訓練（毎月）

絵本や紙芝居を通して、火遊びをしない約束や避難訓練の大切さを知らせている。

(2) 交通安全指導（年4回）

絵本や紙芝居を通して、交通ルールについて知らせている。

(3) 誕生日参観（毎月）

誕生会の中で、お楽しみとして「大型絵本」などの読み聞かせを行っている。

(4) 七夕会、クリスマス会、豆まき会、ひなまつり会等

昔からの伝統行事の由来について、紙芝居等で知らせている。

※ そのほか、日々の保育の中で絵本や紙芝居等の読み聞かせを行っている。

5 赤崎保育園

(1) 季節の遊び・行事・食育に関する絵本・紙芝居

各保育室で絵本や紙芝居を使って、年中行事（お正月・豆まき会・ひなまつり・こいのぼり・七夕・七五三・クリスマスなど）の由来や運動会・遠足などの行事に関する読み聞かせを行い、それが友だちとの「ごっこ遊び」や制作活動に活かされて、子どもたちの日常生活や遊びの豊かさにつながるよう取り組んでいる。

引き続き、絵本や紙芝居を保育活動の一部として毎日取り入れ、読み聞かせをしていきたい。

(2) 交通安全・防犯

紙芝居や絵本を用いて、①横断歩道の歩き方、②道路や車の周りで遊ばない、③（歩道は）お家の人と手をつないで右側を歩く、④シートベルトの装着、⑤知らない人にはついていけないこと等、交通安全や防犯について学ぶことで、子どもたちの交通安全や防犯に対する意識が高まるような効果が得られるよう活用している。

また、火災・地震の避難訓練時においても、事前に読み聞かせをすることで、真剣に訓練に取り組む姿勢が見られ、また、訓練後の振り返りにも活用している。

6 蛸ノ浦保育園

(1) 絵本の読み聞かせ

毎日の日課として、活動やお昼寝の前などに各部屋で絵本や紙芝居を読み聞かせしている。当番が自分の好きなものを選んだり、季節に合わせて保育士が選んでいる。

(2) 貸し出し図書

毎月1回・第3月曜日に絵本の貸し出しを行う。家庭に持ち帰り、親だけでなく祖父母やきょうだいに読んでもらう子もいる。4・5歳児は字を覚えて、自分でも拾い読みやすらすら読めるようになる。

(3) 季節の行事

お正月・節分・ひなまつり・こどもの日・七夕・お月見・ハロウィン・クリスマスなどに関連し

た絵本を手にとれる場所に並べたり、読み聞かせをしている。行事の由来を知る機会となっている。

◎今後取り組みたいこと

外部の方に読み聞かせをお願いする機会を持ちたいと考えている。

7 いかわこども園

(1) 日常の読み聞かせ

年齢に応じた絵本の読み聞かせを行っている。

(2) 「月刊絵本」への取り組み

3歳以上に関しては、園で選んだ「月刊絵本」を家庭で購入していただき、絵本に親しみ、家庭でも楽しんでいただけるような取り組みをしている。

(3) 子育て支援センター「おひさまひろば」での貸し出し絵本

支援センター利用者の絵本の貸し出しを実施

◎今後取り組みたいこと

今年度は新型コロナ予防のため実施できなかったが、状況を見ながら、子育て支援センター「おひさまひろば」における「おはなしころりん」の読み聞かせを進めていけたらと考えている。

8 立根こども園

(1) 図書の貸し出し

読書週間の時期に合わせて、毎週木曜日に図書の貸し出しを行い、返却は翌週の月曜日として、年度末の3月までの期間としている。子どもたちが選んだ絵本を家庭に持ち帰り、親子のふれあい時間として実施している。(今年度は、新型コロナウイルス拡大防止のため、貸し出しは実施していない。)

9 日頃市保育園

(1) 絵本の貸し出し「もりのとしょかん」

毎日(月～金曜日)絵本の貸し出しを実施。

送迎の際に、親子で自由に借りられるように、「絵本コーナー」を開放している。

親子で「どの絵本にするか」、一緒に選んだりすることも楽しみになっているようです。絵本を通して、親子の触れ合いの時間にもなっている。

絵本を借りる家庭が決まっているので、もっと浸透するように働きかけていきたい。そして、大好きなお母さん、お父さんから読んでもらうことは、子どもにとって特別な時間であり、生涯を支えることにも繋がっていくことを少しずつでも広めていければと思います。

10 綾里こども園

(1) 絵本の読み聞かせ(乳児～幼児向け)

園児の年齢や育ちに合った絵本を選び、季節や与えたい時期等も考慮しながら、日常保育の中

で読み聞かせを行う。

新型コロナ終息後は「読み聞かせおはなし会」等、園外でのイベントにも参加したいと考えている。

(2) 行事関係（遠足・七夕・運動会・発表会・クリスマス会・節分・ひなまつりなど）

行事関連の絵本を事前に読み聞かせることで、行事の内容について知り、自分なりにイメージするなど活動に期待を持てるようにする。

(3) 月刊絵本に親しむ（1歳～5歳児）

「月刊絵本」（個人購読）を保育者や友だちと見たり読んだりして楽しむ。また、家庭に持ち帰り、親子で本に触れたり語り合うなど、絵本に親しむ時間をつくる。

(4) 移動図書館車「かもしか号」の利用

毎月1回、綾姫ホール駐車場に巡回。

保育教材として紙芝居や絵本を借りて利用する。

(5) 読書の環境整備

遊戯室（ホール）や保育室など園児が手に取りやすい場所に絵本棚を設置し、「絵本コーナー」として利用する。

11 越喜来こども園

○ 特に活動は設けなかったが、毎日、お昼寝のときに、絵本の読み聞かせをしている。

● 子どもたちは、基本的に絵本が大好きだが、いま、家で絵本を買ってもらうことも少なく、ユーチューブを見て過ごすことが多いと聞く。もしかしたら、絵本に触れる機会は、園だけではないのかとも思う。

そのため、園では、できるだけ読み聞かせをしている。

ただ、あまり家の人に読んでもらう経験のなかった子は、聞く姿勢も悪く、聞けない子もいる。家庭を指導することは難しいので、園で（絵本に接する）機会を与えたい。

今後も、日常の保育活動の中で、「お昼寝前」「朝の会・帰りの会」など、「この時間には、必ず読んでもらえる」という時間を設け、絵本に親しませていきたい。

12 吉浜こども園

(1) 安全の日

「安全の日」に合わせ、不審者対応や交通安全に関する「大型絵本」で理解を深めている。

(2) 行事関係

七夕・クリスマス・豆まき・ひな祭りなどの行事に合わせ、由来等を絵本で理解させている。

(3) 日常活動

毎日の「朝の会」「帰りの会」の前後で読み聞かせをしている。

また、昼寝前の自由時間に読み聞かせをしたり、自由に読書をする子もいる。

製作に関わり、関連した絵本を読み聞かせ、イメージ作りに活用している。

13 海の星幼稚園

(1) 「3. 11 絵本プロジェクトいわて」による絵本の読み聞かせと絵本のプレゼント

「3. 11 絵本プロジェクトいわて」のスタッフによる絵本の読み聞かせなど（11/18 開催）。

(2) 未就園児教室開催の際の絵本の読み聞かせ

未就園児（0～3歳）の年齢に合わせた読み聞かせ。3回開催。

◎今後取り組みたいこと

善隣館書店（盛岡）のスタッフによる歌と絵本の読み聞かせ。年1回。

14 ドレミ保育所

毎月の誕生会や季節の行事に合わせた読み聞かせ

保育所内の行事の中で、大型絵本や本を図書館から借りて、絵本にふれあっている。

蔵書数が少ないので、いろいろな本に出会えるよう、市立図書館から本を借りて、出会いの回数を増やすようにしている。

V 読書ボランティア団体

1 歌とおはなし「クリット」

(1) 綾里小学校おはなし会

（内容） 年7回程度実施

【1・2年生】 1時限（45分）のおはなし会

【3・4年生及び5・6年生】 2月のお昼休みにおはなし会

10年以上このパターンで「おはなし会」を実施しているため、1年生でも兄・姉などから聞いて「楽しいんだ」とわかっていて、最初から集中して話を聴き、1冊でも多く読んでもらおうと、中身の濃い「おはなし会」となっている。

綾里の子どもたちは、感性豊かなので、こちらが「ハッ」と気づかされることも多く、選書が楽しい。

(2) ブックボーイおはなし会

（内容） 毎年4～12月 月1回30分程度 ※令和2年度はコロナのため1回のみ

書店内で実施しているため、参加者数にばらつきがあり、乳幼児から小学2年生ぐらいまでと年齢も幅広いため、臨機応変に対応できるように、10冊以上の本を用意している。

読書好きなパパ・ママがともに参加してくれるので、少数でも「いい読み聞かせ空間」ができていると自負している。

2 読み聞かせボランティア「こころ」

(1) 学校行事支援

立根小学校「朝読書」（8：15から10分間） 1・2年生対象

(2) 子育て支援

- ① 市立図書館「おはなしパレード」 隔月第2土曜日（11：00から30分間）
- ② ブックポート・ネギシ本店 毎月第2日曜日（11：00から30分間）

3 特定非営利活動法人「おはなしころりん」

(1) 読み聞かせ活動

- ① 定期動
 - ア 市内小学校 7校（約300回）
 - イ 市内中学校 1校
 - ウ 福祉施設等 3施設（約40回）
 - エ 市立図書館（おはなしパレード・ブックスタート）
 - オ その他市外施設
- ② 定期イベント
 - ア 市立図書館（おたのしみ親子劇場）
 - イ 市内小学校「読書まつり」（6校）
 - ウ 市社会福祉協議会主催行事
 - エ 市内保育園・学童保育等
- ③ 依頼による「出前おはなし会」
 - ア 市内小学校（「子ども会」を含む）
 - イ 市内中学校
 - ウ その他の団体等

(2) 手づくり紙芝居の製作と読み聞かせ

気仙各地に伝わる民話や史実及び創作童話を題材とした「手づくり紙芝居」を製作し、読み聞かせを行う。

(3) マスコミを活用した絵本の紹介等

- ① FMねまらいん 朗読番組「おはなしのおくりもの」（毎週金曜日）
- ② FMねまらいん 情報番組「875chanねる」（毎週金曜日）
- ③ 東海新報 書評連載「絵本の世界」（隔週火曜日）

(4) 移動子ども図書館

- ① 市内小学校（11校） 全クラスに毎月30冊貸出し 「ころりん新聞」（年6回発行）
- ② 子育て支援団体（12団体） 各団体毎月1回 おはなし会・貸出し・子育て相談など
- ③ 地域巡回（高台移転先・災害公営住宅・集会所等17か所） 毎月1回
- ④ 地域交流図書室「おはなしサロン」（おはなしころりん事務所隣接）
毎週4回 おはなし会・貸出し・古本市など
- ⑤ 読書状況アンケート調査 年1回、市内全小学校（11校）の5・6年生対象

(5) 市防災観光交流センター（おおふなぼーと）関係事業

- ① 読書活動推進事業 読み聞かせおはなし会 おすすめ本の常設展示 企画展示
- ② イベント開催・交流活動 子ども遊び・防災学習など紙芝居読み聞かせを交えたイベントを随時開催
- ③ 絵本作家ワークショップ 年2回程度開催 市内保育園・小学校対象

(6) 絵本作り（東南アジアに絵本を届ける活動）

市内小・中学校及び高等学校（10校）で実施

(7) 読書推進関連講演会

市内外の養育機関・乳幼児学級・家庭教育学級などでの講演会開催（随時）

(8) 軒下古本市

事務所内外に、絵本・児童書・その他の書籍を常時約300冊配置し、無償又は低価格で提供。

(9) 「おたより やりとり 思いやり」

対面を避け、手紙(文通)による交流活動。男女19名と文通継続中。

VI 市立図書館（令和3年度予定事業）

(1) 乳幼児・児童の読書推進

① 読み聞かせ会「おはなしパレード」（毎月第2・4土曜日）

〔対象〕 小学生以下の子どもと保護者

〔内容〕 読み聞かせボランティア団体を演者とした絵本等の読み聞かせ会

② おたのしみ親子劇場

〔対象〕 小学生以下の子どもと保護者

〔内容〕 大会場でスクリーンに絵本を大きく映し出しての絵本の読み聞かせや人形劇など

③ ブックスタート事業（隔月）

〔対象〕 乳児と保護者

〔内容〕 保健介護センターにおける「7・8カ月児健康相談」の参加者に対し、ブックスタートパック（絵本等のセット）を配付するとともに、絵本の読み聞かせを行い、乳児期から本と親しむ機会を提供する。

(2) 青少年・成人の読書推進

① ヤングアダルト（中高生等対象）図書コーナーの充実

② 移動図書館車「かもしか号」による、中学校（学級単位）での貸出し

③ 図書館だよりの発行（小・中・高校生向け）

④ 「夜の図書館 de 読書会」等の開催

自薦の本を持ち寄り、互いに紹介し合うことで、読書への関心を高める。

⑤ 企画図書展の開催

所蔵資料を活用し、市内外の時節に応じたテーマに沿った関係図書を展示し、読書推進と図書館の利用促進を図る。

⑥ 市民文化会館事業との連携

「リアス・ウェーブ・フェスティバル」（2年度は実施見送り）等のイベントとタイアップし、読書推進と図書館の利用促進を図る。

(3) 読書ボランティアの育成

読み聞かせボランティア団体を通じて、関心のある方々に「おはなしパレード」など読み聞かせの機会への参加を促し、新たなボランティアの育成に努める。

また、ボランティア団体連絡会議を開催し、情報交換を図る。

(4) 学校図書館との連携

市内小・中学校 15 校の学校図書館と連携し、相互に補完しあうことで、児童・生徒の読書活動を支援する。

① 大船渡地区学校図書館協議会との連携

② 移動図書館車「かもしか号」の巡回（小学校 11 校・中学校 4 校予定／毎月 1 回）

各学校を移動図書館車のステーションに設定し、クラス単位または個人への貸出しを実施

(5) 職員研修の充実

岩手県立図書館等主催の研修受講とともに、随時職場研修を実施し、図書館運営及び利用者サービスの向上に努める。

(6) 県内外図書館との連携

岩手県立図書館及び県内公共図書館等とのネットワークを活用し、最新情報の入手等、図書館運営の充実を図る。